

景観計画の改定に関する報告

第4期の市民検討会でいただいたご意見等を踏まえ、現在改定中の景観計画に反映している内容を、参加者の皆さんに報告しました。

主な反映事項

第6章 地域別の景観まちづくり

- ・4つの景観形成推進地区（水、道、駅、農）の【景観形成目標】【景観形成方針】の充実を図りました。
- ・市内9駅の特等に関する協議内容をまとめ、「駅」の景観形成推進地区における【市内各駅の景観特性】として掲載しました。



第7章 学校区別の景観まちづくり

- ・市内の小学校区（20校区）に関する検討内容をまとめ【景観まちづくり方針案】の見直し、充実を図りました。
- ・参加者の皆さんが発見した「景観資源」をまとめ、20校区の【景観資源図】を新たに作成しました。



改定内容に関する 主なご意見

- 市民検討会の内容がよく反映された印象を受けた。景観資源図は市民の閲覧に限らず、教育教材として学校内外の様々な場所で活用されると良い。
- 市民に広く伝わるよう、文字サイズ等に配慮した視認性の高い表現を念頭に作成を進めてほしい。
- 教育教材の観点では、将来の教育環境への適応を見据え、冊子のほかデータベース形式でも取りまとめられると良い。

今後の予定

「調布市景観計画」は改定内容の取りまとめを進めています。今後、市民の皆さんからご意見を募集する「パブリック・コメント」を行う予定です。詳細は調布市ホームページにてご案内いたします。

第5期市民検討会のご案内

来年度からは「第5期市民検討会」として【夜間景観】を新たなテーマに、調布市の景観の魅力やあり方を、市民の皆さんと一緒に考えていきます。今後、第5期市民検討会の参加者を募集予定です。詳細は調布市ホームページ等にてご案内いたします。



調布市では景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせしていきます。

発行：調布市都市整備部 まちづくり推進課 開発景観係

Tel：042-481-7442 Fax：042-481-6800 Email：keikaku@city.chofu.lg.jp

ちょうふ景観だより

第70号 | 令和8年
3月31日発行

日中と夜間における景観の比較



調布ならではの
夜間景観の
あり方を探る



※慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス構内(石川教授撮影)

次期検討テーマ「夜間景観」について、レクチャーしていただきました

第10回市民検討会が第4期の最終回であったことから、前半は第4期の歩みを振り返り、いただいたご意見等を景観計画の改定に落とし込んだ内容を報告しました。

後半は第5期市民検討会の検討テーマ「夜間景観」を対象に、景観アドバイザーの慶應義塾大学石川教授よりレクチャーをいただき、参加者からの質問にもお答えいただきました。

本号では、レクチャーや質疑応答の一部を紹介します。

第4期 第10回 調布市景観まちづくり市民検討会

開催テーマ

「これまでの取組を振り返り、将来の景観まちづくりにつなげよう！」

開催日時：令和8年2月27日（金） 19:00～

石川教授より、「夜間景観」をテーマとしたレクチャーをいただきました



人の営みとの関係性

- 夜間の方が、人の動きが際立って見えることが多くあります。衛星写真等で示される光の明るさや大きさは、その町の営みの規模と比例します。
- 調布らしい夜間景観の1つは、調布市花火大会です。照明の少ない多摩川沿いだからこそ、花火の美しさが際立ちます。

参加者の皆さんからの質問に、石川教授からお答えいただきました



地域資源である「水木しげる」や「国立天文台」といった観点を絡めて調布らしい夜間景観のあり方を検討できると、面白いと思います。

素晴らしい視点です。現在の夜間景観がどうあるべきかに加えて、固有の地域資源を活かしたあり方の検討により調布ならではの夜間景観が生まれます。

なぜ夜間景観をテーマにするのか？

- 「東京都景観計画（平成30年8月 東京都改定）」において、新たに【夜間照明】に関する事項が追加され、各区市町村でも検討を進める必要があります。
- 一方で、夜間照明は、生活環境に大きな影響を及ぼすものです。
- 「観光地」「豊かな自然」「良好な住宅地」等の様々な側面を持つ、調布市ならではの夜間照明のあり方を探っていく必要があります。

市民検討会で皆さんからいただくご意見等を踏まえ、「調布市景観形成ガイドライン（夜間景観編）」として取りまとめます。

照明がつくる夜間景観

- 人間が夜間景観の美しさを感じるのは近代以降で、ゴッホをはじめとした多くの画家が題材として扱ってきました。
- 長崎市では景観デザイナーとともに夜間景観を街なかに整備しました。坂道の手すりへの照明設置など、その場所らしさの表現と周辺環境への配慮を両立しています。
- 夜間景観と照明に関するルール策定の先進事例は、京都市です。地域特性や固有の資源など、様々な視点で京都市にふさわしい夜間景観を定めています。



▲夜間景観ガイドライン「京都のあかり」

調布らしい夜間景観を考えるために

- 夜間景観は、調布駅前のような照明に照らされた景観だけでなく、深大寺周辺など敷地が広く、比較的民家の明かりが少ないエリアにおける景観も当てはまります。
- 調布駅周辺の明るさは、多摩地域では上位に入ります。一方で調布飛行場や野川公園周辺は際立って暗く、調布市内で二極化した特徴を有しています。
- 近年の気候変動により、夏季は比較的過ごしやすい夜間が生活空間として身近になってきました。市民検討会でも、夜間の街歩きなどの企画は面白いかもしれません。

治安の維持や安全性の確保にも目配りをする必要があると思います。

重要な指摘です。闇夜が残る状態は今や貴重な夜間景観の1つですが、こうした環境の維持には、安全性の確保との両立が不可欠です。取りまとめにあたっては、広い視点での整理が必要になるでしょう。

野川沿いのライトアップなど、市民や民間事業者の方が主体で開催する魅力的な夜間景観づくりに寄与する取組があります。こうした取組が今後も続くよう、行政との連携が重要と考えています。

地域主体の取組は素晴らしいですね。皆さんが主体だからこそ継続する取組もあり、様々な事例があります。地域性や関係者の方々のご意見等も踏まえながら、正しいあり方の検討にはしっかりと議論が必要だと思います。